

教員・研究室紹介



材料・施工研究室



学科長 太田 達見 教授
Ota Tatsumi

■ 学位／博士(工学) (宇都宮大学)

[研究室キーワード]
鉄筋コンクリートの品質評価
耐久性調査 非破壊検査

1984	千葉大学大学院工学研究科建築学専攻修士修了
1984	清水建設株式会社 原子力設計部 技術研究所などで主に研究・開発に従事
2005	宇都宮大学大学院 工学研究科生産・情報工学専攻 修了(博士)
2018	現職

材料と造り方から考える 鉄筋コンクリートの新たな「かたち」



研究を始めたきっかけは、渋滞中の高速道路で目にした高欄の鉄筋に沿って生じたひび割れでした。なぜこんなひどい状態になったのかを考え、ある仮説に辿りつきました。この仮説を証明するため実験を行い、原因を突き止めました。コンクリートは複合材料であり、これに打ち込みなどの施工行為が加わるため、鉄筋コンクリート部材の品質はこれらに大きく影響されます。本研究では、様々な材料・施工的要因が鉄筋コンクリートの品質に及ぼす影響を定量評価し、より良い建築物が施工できるようにすることを目指しています。

耐震構造研究室



理工学部長 丸田 誠 教授
Maruta Makoto

■ 学位／博士(工学) (千葉大学)

[研究室キーワード]
耐震設計法 構造部材性能評価
高層建物地震応答評価

1984	千葉大学大学院工学研究科建築学専攻修士修了
1984	鹿島建設(株) 建築設計本部
1986	鹿島建設(株) 技術研究所
2010	島根大学大学院総合理工学専攻 教授
2016	静岡理工科大学 建築学科設置準備室 教授
2017	現職、島根大学 名誉教授

世の中から建物地震被害をなくすために！ 被害低減のための設計法整備の推進



日本の建物は地震の恐怖にさらされています。それを安心安全なものにするため耐震設計法が整備されています。新たな材料や構法に対応する部材レベルの新たな設計法を提案、提供していきます。構造実験や解析を通して建物部材の保有能力を評価し、中地震に対する設計、大地震に対する設計をしています。特に鉄筋コンクリート、プレストレストコンクリート、鋼コンクリート構造などを中心に研究を進めています。また木質材料を用いた構造研究や木材と鋼を合成した構造についても研究をおこなっています。

建築計画・デザイン研究室



脇坂 圭一 教授
Wakisaka Keiichi

■ 学位／博士(工学) (東北大学)

[研究室キーワード]
建築計画・デザイン ファシリティ・
マネジメント キャンパス計画 意匠論

1997	東北大学建築学科卒業後、建築設計事務所勤務
2005	オーパス建築大学(デンマーク政府奨学金) JDSアーキテクト(コペンハーゲン)
2008	東北大学大学院博士課程後期修了後、 脇坂圭一アーキテクト設立(hygge design labに改組)
2011	名古屋大学施設計画推進室 准教授
2016	静岡理工科大学 建築学科設置準備室 教授
2017	現職

建築スケールから都市スケールまで、 計画から運用まで、LabとDesignを循環させる



建築は、表層のデザインについて語られがちですが、それは求められる要素の一つではありません。つくられる前の条件設定が適切だったか(過大/過小になりがち)、つくられた後の使われ方は想定通りか(意図通りにならないことが多い)、研究として検証しています。その検証結果を建築に実装し、あるいはシミュレーションをおこなって、さらに検証していくという、デザインとラボ機能を回していくことが目標です。その際、技術者が業務として扱うことが難しい領域を研究としてフォローすることや、常に社会との関係を念頭に置くことが重要と考えています。

建築・都市設計研究室



佐藤 健司 教授
Sato Kenji

■ 学位／修士(工学) (東京大学)

[研究室キーワード]
建築設計 都市設計

1983	東京大学大学院工学系研究科 建築学専門課程修士修了
1983	メルボルン大学大学院
1985	株式会社 磯崎新アトリエ
2000	有限会社 佐藤健司建築都市研究所 代表取締役
2017	現職

建築のシンギュラリティ(特異点)を 目指して



建築の設計や計画はスタティックです。建物は大地に固定され、不動の構築物です。しかし、複数の建物が集まって都市が形成されるとき、その挙動はダイナミックです。3次元の空間軸に時間という次元が加わります。ですから、建築の計画概念をそのまま拡張する形では都市は計画され得ません。都市を伸び縮みするシステムとして捉え直し、動きのあるものを注視すべきです。人の流れ、モノの流れ、車の流れ、水やエネルギーの流れ、などです。その上で、それにふさわしい設計手法が開発されるべきです。

防災構造工学研究室



崔 曉 教授
Choi Ho

■ 学位／博士(工学) (東京大学)

[研究室キーワード]
耐震性能評価 耐津波性能評価
地震被害調査 各種実験・計測

2006	東京大学大学院工学系研究科 建築学専攻 博士課程 修了
2006	日本学術振興会 外国人特別研究員
2008	東京大学生産技術研究所 助教
2018	静岡理工科大学 准教授(理工学部)
2022	現職

地震災害から学び、地震災害軽減に 貢献するための実験的・解析的研究を行う



地震多発地域では、地震や津波に備えて十分な耐震性能や耐津波性能を建物に付与するとともに、地震被害を総合的に軽減する必要があります。本研究では、コンクリート系建築物の耐震性能および耐津波性能の向上を目指して、①既存建築物の耐震・耐津波性能評価手法の開発、②耐震補強・補修方法の開発、③被災建築物の被災判定手法・残存耐震性能評価手法の開発、④新たな耐震・耐津波設計法の提案、などのテーマについて実験的・解析的研究をおこなっています。

建築意匠研究室



長尾 亜子 准教授
Nagao Ako

■ 学位／芸術士(多摩美術大学)

[研究室キーワード]
保存改修 アフォーダブル
まちと建築 建築ストック

1989	多摩美術大学芸術学部建築学科卒業
1989	妹島和世建築設計事務所(1993年まで在籍)
1993	長尾亜子アトリエ 主宰
2000	長尾亜子建築設計事務所 主宰
2018	現職
2020	岩堀未来長尾亜子建築設計事務所 共同主宰

変容していく都市の中で時間／空間／ 人をつなぐ建築の在り様を創る



建築は機能的に自立していて、敷地内で自由にかたちをつくることができます。しかし、建築はまちを形成する部分でもあり、それぞれのまちの個性をつくり出しています。そのようなまちと建築の関係に着目して、それぞれの「建築のかたち」がどのように人々のアクティビティやコミュニティをつくり出しているかを分析します。また、まちは常に変容しています。一つの建築のかたちがある「場」を生み出しているか、まちの変容をひとときながら建築との相互関係を考察し、まちと建築の未来をデザインしていきます。

建築環境(温熱)研究室



石川 春乃 准教授
Ishikawa Haruno

■ 学位／修士(工学) (早稲田大学)

[研究室キーワード]
建築環境工学
建築省エネルギー ZEB 居住環境

1991	早稲田大学理工学部建築学科卒業
2004	早稲田大学大学院修士課程修了 長野県庁経営戦略局、企画局
2006	株式会社エス・ラボラトリーズ代表取締役
2018	早稲田大学大学院博士後期課程満期退学
2018	現職

建築物の内外から考える、 「季節」と「人」と「居住環境」



「居心地のよさ」は、何によって決まるのでしょうか。日本人は、四季折々の自然環境や地域の風土を活かし、建築と周辺環境をゆるく捉えてきました。これからの脱炭素社会を目指し、現代の建築には今まで以上に、自然環境との調和、快適性とエネルギー消費の均衡など、言わば「賢いバランス」が求められます。私たちは、この「賢いバランス」を実現する技術者として社会貢献できるよ、日々実践的な調査実験を行い、静岡型地産地消の建築物エネルギー消費抑制を図る研究をおこなっています。

設計・意匠(デザイン)研究室



田井 幹夫 准教授
Tai Mikio

■ 学位／学士(工学) (横浜国立大学)

[研究室キーワード]
建築デザイン 空間論 素材 構造
中間領域 身体と空間

1992	横浜国立大学建設学科建築学コース卒業
1993	ペルラーヘインスティテュート (オランダ/アムステルダム)
1994	内藤廣建築設計事務所スタッフ
1999	アーキテクト・カフェ主宰
2004	アーキテクトカフェ・田井幹夫建築設計事務所代表
2018	現職

建築を考えることは未来を考えること。 空間を作ることは身体から社会まで貫いて創造すること

建築空間における中間領域の意味を拡張し、単位空間から都市空間に至るまで、空間的、プログラム(活動)的な両側面から分析を行うとともに、新たな空間とプログラムの絡み合い方、発生の仕方を試行、研究します。また、空間は身体の延長であるという立脚点の元、建築の素材と構造に注目し、技術史の観点を持って新たな空間性の創造を目指します。

建築環境システム研究室



鍋島 佑基 准教授
Nabeshima Yuki

■ 学位／博士(工学) (北海道大学)

[研究室キーワード]
建築環境工学 建築設備工学 計測・自動制御
潜熱熱分離空調(デシカント空調)

2013	北海道大学工学部空間性能システム専攻 博士後期課程修了
2014	北海道大学工学部 博士研究員
2015	(株)テクノフロンティア 主任研究員
2016	豊橋技術科学大学 建築都市システム学系 助教
2019	静岡理工科大学 講師(理工学部)
2022	現職

居室の安全・快適と、 省エネルギーのベストバランス



日本では建築物のゼロエナジー化(ZEB/ZEH)の取り組みが行われています。デシカント(除湿)システムはシリカゲルに代表される吸着材を用いた除湿・加湿空調であり、高い省エネルギー性が期待されている空調方式として、ビルや工場で普及しています。本研究では一般住宅に導入可能な独自のデシカントシステムを市場投入するため、材料(デシカントローター)、機器(デシカントユニット)の開発、そして空調システムの最適・自動制御技術の研究開発をおこなっています。